

「栄養で日本を救った愛媛の偉人 佐伯 矩」
松山市立東雲小学校 第6学年 水野 恵美莉

松山市立東雲小学校6年 水野 恵美莉

① 生い立ちから栄養学への道

1974(明治37)年、愛媛県松山市水見村(現・西条市)の眼科医の長男として生まれる。3歳の時に、父の病気で、1年ほど病室に入院し、幼少時に病室で過ごす経験がある。岡山大学第二高等学校(現・岡山大学教育学部)を卒業後、京都府立医科大学で栄養学を専攻し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生先生から栄養学を学ぶ。1995年に栄養学を専攻し、理学修士と理学博士を修得。

佐伯先生が発見した2つの栄養素

大塚おしほは、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。


大塚おしほは、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。

大塚おしほは、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。

佐伯先生は、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。

年月	内容
1974年(明治37)	愛媛県松山市水見村の眼科医の長男に生まれる。
1978年(明治41)	岡山大学第二高等学校(現・岡山大学教育学部)を卒業。
1982年(明治45)	京都府立医科大学で栄養学を専攻し、在学中に、1992(明治55)年に上野英生先生から栄養学を学ぶ。
1995年(平成7)	栄養学を専攻し、理学修士と理学博士を修得。
1996年(平成8)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
1997年(平成9)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
1998年(平成10)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
1999年(平成11)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2000年(平成12)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2001年(平成13)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2002年(平成14)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2003年(平成15)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2004年(平成16)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2005年(平成17)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2006年(平成18)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2007年(平成19)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2008年(平成20)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2009年(平成21)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2010年(平成22)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2011年(平成23)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2012年(平成24)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2013年(平成25)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2014年(平成26)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2015年(平成27)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2016年(平成28)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2017年(平成29)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2018年(平成30)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2019年(令和元)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2020年(令和二)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2021年(令和三)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2022年(令和四)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。
2023年(令和五)	松山市立東雲小学校に栄養学を指導する。

栄養で日本を救った
愛媛の偉人



佐伯先生は、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。

1974年～1995年

さ い き た だ す

佐伯 矩

戦前の日本の食料と国民病

当時の日本は、戦時体制下で、食料不足が深刻化し、国民病が増加しました。佐伯先生は、戦前の日本の食料と国民病について、研究をすすめています。

- ＜佐伯先生が発見したこと＞
1. 体を健康に保つには炭水化物、たんぱく質、脂質の三大栄養素が必要なこと
 2. 元気に活動するための必要なたんぱく質の基準値があること。
 3. ビタミンやミネラルが欠乏すると病気になること。
 4. 栄養のパラメータは一日の「献立」を考えただけでは足りないこと。
- ★佐伯先生の意見は、SDGsの3番目の人に健康と福祉を達成することには役立ちます。

② 国立栄養研究所の設立と「栄養学」から「栄養学」へ

1978(昭和53)年に文部省の委託で、松山市立東雲小学校に「栄養学」を指導する。1992(平成4)年に、松山市立東雲小学校に「栄養学」を指導する。1995(平成7)年に、松山市立東雲小学校に「栄養学」を指導する。

③ 給食の普及へ

1923(大正12)年、開校式が行われ、給食が開始された。佐伯先生は、給食の普及について、研究をすすめています。



現在の「学校給食センター」の前身である。

佐伯先生が発見した「栄養パン」3種類

全功パン、標準パン、保健パン

佐伯先生は、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。

④ 佐伯先生の苦学と新たな試み～栄養学への挑戦～

佐伯先生は、栄養学の分野で、大塚おしほが発見した2つの栄養素について、研究をすすめています。

⑤ 社会貢献と海外の発信

1921(大正10)年に「栄養学会」を創設された。この時点では、栄養学は医学に属するものと考えられていた。1922(大正11)年、国立栄養研究所は、栄養学の普及に努め、具体的には「献立」を「調理」に移すことで、新聞紙上でその普及を図った。1923(大正12)年の関東大震災の際には、国立栄養研究所は、被災者に対する救済活動に、各所へ食品の分配、炊事用水の運搬、重湯の調理と分配にあたった。

★ 栄養学会の設立と国立栄養研究所の活動は、SDGsの17番目の持続可能な開発目標に貢献しています。

国際連盟は、1926(昭和元)年に、佐伯先生を国際連盟の栄養委員に任命された。1927(昭和2)年には、パリで開催された国際衛生学講習会に、講演を行った。1928(昭和3)年には、東京で開催された国際衛生学講習会に、講演を行った。1929(昭和4)年には、東京で開催された国際衛生学講習会に、講演を行った。

佐伯先生は、国際連盟に対して、国際連盟としての標準の統一を模索している。これは現在でも使われている。1937(昭和12)年に、国際連盟の栄養委員に任命された。1938(昭和13)年に、国際連盟の栄養委員に任命された。

★ 佐伯先生の海外への発信は、SDGsの17番目の持続可能な開発目標に貢献しています。